

Fastly + Retty株式会社

初めて取り組み動画配信の基盤を わずか2週間で整備 異なる動画形式を意識せずに 最適な顧客体験を提供する Fastly OTFP

掲載店自ら管理画面から動画ファイルをアップロードすることで、店舗情報が動画で紹介できる動画配信の仕組みを Fastly OTFP にて構築。検索順位の上昇など SEO 的な効果を実感、顧客体験の向上に大きく貢献。

掲載店から望まれていた動画投稿、 SEO 観点からも動画への対応が急務に

「新たな『食体験』を創り上げ、人生をもっと Happy に。」をミッションに掲げ、日本最大級の実名型グルメサービスを提供している Retty株式会社。およそ70万もの掲載店舗数と数百万件の口コミ投稿数、月間利用者数に至っては2600万人（2022年5月時点）を誇っており、都市部のスマートフォンを利用する若い世代を中心に、外食頻度の高いユーザーを多く獲得している。信頼できる友人や好みの合う人から自分にぴったりなお店を探すという世界を実現することで、未来のスタンダードとなる新たな食体験を創出している。

そんな同社では、掲載している店舗情報は画像とテキストを中心に構成されているが、以前からお店からの公式動画配信やユーザーからの動画投稿に関するニーズがあり、最適な方法を検討してきた経緯があった。内容のチェックをはじめとした掲載フローの整備が必要だったこともあり、体制や技術的な実装を含めてタイミングを検討してきたという。

そんな折、動画に対するニーズが多く寄せられるようになっただけでなく、サービス動線の1つである Google の検索サイトにおいて動画を重視していく流れが出てきたという。「お店からの要望はもちろんですが、動画を掲載することで検索上位に表示されやすくなるという SEO の観点での事例が相次いでいました。そこで、部門として動画配信に関する技術調査とその実装について検討を進めることになったのです」と森脇氏は当時を振り返る。

異なる形式の VOD ファイルをパッケージ化、 動画配信基盤として最適な Fastly OTFP

同社にとって動画を扱うことは新たな試みであり、動画配信の専任者として、クラウド周りでフロントからバックエンド全般の開発に携わっていた森脇氏が担当にアサインされた。ただし、動画配信への挑戦は森脇氏にとっても初めての挑戦であり、動画に関するエンコード形式や動画配信に必要な変換方法など、いちから調査を始めたという。

当初は AWS を活用して自前で環境を整備することも検討したが、少数精鋭で運用していくために、メンテナンスの負担が大きい環境を指向し、動画配信の最適なサービスを活用することを念頭に、調査を進めていったという。環境を自前で整備することはできないものの、Rettyは動画コンテンツを主体とするサービスではないこともあり、できる限り安定的に利用できるサービスを検討することにしたのだ。



社名:Retty株式会社

実名型プラットフォームとして信頼性の高い飲食店情報を提供しているグルメサービス「Retty」を運営。月間利用者数は2600万人を超え、多くの利用者が同サービスを利用。

住所:〒105-0011 東京都港区芝公園2-10-1

住友不動産芝園ビル2階

URL:<https://retty.me/>



Network Services

そこで声をかけたのが、以前からコンテンツ配信としてのCDNをはじめ、アップロードされた画像を最適形で動的に生成、配信することが可能な Image Optimizer、低コストで誤検知が少ないセキュリティソリューション Next-Gen WAF を採用していた Fastly でした。「Fastly CDN や画像配信の最適化が可能な Image Optimizer、Fastly Next-Gen WAF などの実績があり、動画配信についても我々に最適なものが提案いただけると考えたのです」と森脇氏。

そこで紹介を受けたのが、動画ファイルを指定フォーマットにオンザフライ（リクエストを受け付けながらリアルタイム）でパッケージ化し、レイテンシと読み込み時間短縮に大きく貢献する Fastly OTFP (On-the-Fly Packager) だった。「Fastly OTFP であれば豊富な動画形式に対応できるだけでなく、広告挿入やデジタル著作権管理などもサポートしてもらえることが分かりました。ミーティング後すぐにトライアル環境で検証できるとご提案いただいたことで、スピード感を重視してすぐに使ってみることにしたのです」と森脇氏は語る。コストパフォーマンスの面でも、他のサービスをいちから利用するよりも優れている点も大きかったという。

効果の確認も含めていち早く環境が用意できる点を高く評価し、動画配信の仕組みとして Fastly OTFP を採用することになった。



エンジニアリング部門
Web開発 Unit2
森脇 健太 氏

安定した動画配信の仕組みが継続、検索順位を上げる SEO 効果を実感

Fastly OTFP の提案を受けた翌日には開発用の環境が用意され、すぐにトライアルが始まり、わずか2週間ほどで配信の仕組みを整備することに成功。当初は店舗から入手した動画を手作業にて S3 にアップロードし、配信用の URL を店舗側の Web サイトに展開していたが、徐々に要望が増えてきたことで、管理画面から店舗側で自動投稿できる仕組みを構築している。

実際には投稿ツールから動画内容をチェックするためのステージング環境に自動アップロードされ、本番環境に手作業でアップロードする環境が整備されている。「管理画面上で入力した付帯情報とともに内容をチェックし、確認した段階で Fastly と連携する S3 の本番環境へ移行し、URL が吐き出される形となっています。現状は有料契約のお店会員様向けのサービスとしていて、現時点で数百件のページに動画が掲載されています」と森脇氏は説明する。動画については、お店が SNS で発信しているものを Retty にも活用するというケースが多く、既存資産を活かせる場となっているという。

実際に動画を掲載している店舗については、Google 上での表示順位が上がっていることが確認できるなど、現時点で SEO 面での効果が出ているという。「検索順位を上げるロジックは定期的に変更されるため、いろいろ試していけることが重要です。Fastly OTFP を活用することで、迅速に施策の効果検証ができる環境がスピード感を持って用意できました。Fastly OTFP がなければ、デバイスごとに対応方法の検証も必要でしたし、調整含めたメンテナンスにも時間がかかってしまい、効果を確認するまでにさらに数ヶ月は時間がかかっていたはず」と森脇氏は評価する。

また、撮影環境による様々な動画形式や様々な種類のデバイスに配信していくことになるため、お店側から再生がうまくいかないといった問い合わせがくることが想定されていたが、実際にサービスをリリースしてからトラブルなく動画配信が可能になっている。「動画配信に関するお店のお困りごととは開発リソースを割いて解決していこうと考えていましたが、配信先の環境を Fastly OTFP でうまく調整できており、順調に動画配信できています」と森脇氏。動画配信が新たに始まったものの、動画周りの運用が増えて苦労するような場面もない状況だ。

Fastly については、導入に向けて開設された Slack チャンネルにてエンジニアからの支援を受けることができ、不明点を適宜確認しながらスムーズな環境整備が可能になったと森脇氏の評価は高い。

投稿者の口コミでも動画が扱える環境も検討、Fastly Compute にも期待

今後については、現在手作業で行っているステージング環境から本番環境への展開を自動化するなど、さらなる効率化に向けた環境整備を進めていきたいという。「現在は自身の目でチェックしていますが、いずれはガイドラインを整備したうえで、動画の中身も含めて自動的にチェックできるような環境づくりが理想的です」と森脇氏。また、現在は有料契約しているお店のみが動画配信できるようになっているが、いずれは口コミを寄せてくれるユーザーからの動画投稿も検討していきたいと考えている。「料理の写真だけでなく、最近ではお店へ訪れた時の雰囲気といった体験を重視してお店を選ぶ方も増えています。動画のほうが写真に比べて情報量が多くなることは間違いないため、いずれは投稿者側でも動画が扱えるようになればと考えています」。

また速度が非常に重視される Web サービスを提供できるだけに、よりユーザーに近い部分でのコンテンツ生成や、利用するたびにログインせずともエッジ側で処理できる環境の整備など、機能単位の集まりで構成するマイクロフロントエンドをエッジ環境で実現できる Fastly Compute に興味を持っているという。「Web サイトのレスポンスはユーザー体験に貢献する意味で重要です。是非、Fastly Compute も活用してみたい」と今後について森脇氏に語っていただいた。

お問い合わせ



✉ japan@fastly.com

🐦 @FastlyJapan

🌐 www.fastly.com/jp

📘 @FastlyEdgeCloudJapan

Retty

fastly



© 2023 Fastly, Inc. All Rights Reserved